

【授業の到達目標と概要】

保健社会学とは、健康の保持増進を対象とした社会学である。ここでの社会学とは、人と人とのつながり・人間関係について明らかにしようとするものである。健康の要因として、食事や運動もさることながら、人と人との支えあいや絆の影響がこれまで思われていた以上に大きいことがわかってきている。人とのつながりは、人々が健康問題に対して情報を収集し、理解し、評価して活用する力であるヘルスリテラシーの形成や向上に大きく影響を及ぼしている。ヘルスリテラシーとは、自分が持っている潜在的な能力を十分に生かせるように情報を得て適切に自分らしい意思決定をして健康でいられる能力であり、その現状や向上方法について学習する。DPにある保健学の幅広い視野に立って精深な学識を有する者になるための知識修得に関与する。

【授業計画】

- ①② ヘルスリテラシーとは
- ③④ 日本人のヘルスリテラシーと意思決定できる幸せ
- ⑤⑥ 情報の信頼性の確認とヘルスリテラシーを支えあうコミュニケーション
- ⑦⑧ 情報の評価と意思決定のスキルと子どもと高齢者のヘルスリテラシー
- ⑨⑩ 患者中心の意思決定支援と意思決定ガイド
- ⑪⑫ 人と人とのつながりとヘルスプロモーション
- ⑬⑭ ヘルスリテラシーのある社会

ただし、履修者の関心によって、あるテーマを中心的に扱うなど、項目や時間配分を変更する。

【授業外学習】

授業時に提示する資料や参考書の講読を行うこと。

【成績評価の方法・基準】

授業への参加態度とレポート（レポートにはコメントをフィードバックする）

【教科書】

中山和弘：これからのヘルスリテラシー 健康を決める力。講談社。

【参考書】

- ・福田洋・江口泰正編：ヘルスリテラシー—健康教育の新しいキーワード。大修館書店
- ・中山和弘：看護学のための多変量解析入門。医学書院。

【教材】

特になし

【備考】

特になし